

# 日本産酒類の輸出促進に向けた取組

---

独立行政法人国際交流基金

令和元年5月14日



## 【対応方針】情報発信の強化（国内外の情報発信拠点の活用）

⇒平成30年度は大型日本文化・芸術の祭典「ジャポニスム2018」の場を活用することにより、日本産酒を多角的に紹介。

## ■平成30年度の取組状況■

### ジャポニスム2018公式企画「日本の食と文化を楽しむ」シリーズ① 酒巡り in Paris（2018年9月29日～10月5日）



パリのさまざまなジャンルのレストラン、バーと日本各地の蔵元をそれぞれ公募により24軒ずつ選び、1対1でマッチングした上で、日本酒を各店のシェフやソムリエが考案した特別メニューとともにお客さんに提供。



- 会期中計約2680名が参加
- 本事業がきっかけで、レストランが継続的に参加銘柄を扱うことになった蔵元もあり

- 主催● 国際交流基金
- 企画● 関口涼子
- 協力● Salon du saké、株式会社パソナ農援隊、ふしきの（セミナー講師：宮下祐輔）

#### ●参加蔵元●

国稀酒造株式会社、月山酒造株式会社、株式会社男山本店、株式会社佐浦、永井酒造株式会社、株式会社外池酒造店、豊島屋酒造株式会社、八海醸造株式会社、株式会社豊島屋、宮坂醸造株式会社、川尻酒造場、伊藤酒造株式会社、美吉野醸造株式会社、黄桜株式会社、月桂冠株式会社、明石酒類醸造株式会社、剣菱酒造株式会社、利守酒造株式会社、株式会社加越、宗玄酒造株式会社、吉田酒造株式会社、株式会社今田酒造本店、株式会社八木酒造部、天吹酒造合資会社



ジャポニスム2018記念メニューの一部



蔵元による酒造りの歌披露の様子



蔵元とお客様の交流の様子

#### ～参加蔵元の声～

- 「日本酒を1つの日本文化として、歴史、作り方、味わい方を丁寧に説明した方がよいと分かった。」
- 「自分たちも驚くような日本酒の出し方だった。」

## ■平成30年度の取組状況■

### ジャポニスム2018公式企画「日本の食と文化を楽しむ」シリーズ② 日本のお酒試飲の夕べ（2018年11月及び2019年1月・2月の計6回）



各県が誇る日本酒を県の魅力や風土とともに紹介して、日本酒愛好者の裾野拡大やインバウンド効果に繋げようとする試み。パリ市民が日々集う街中のワインバーを会場に、新潟県、佐賀県、広島県、石川県、島根県、奈良県がそれぞれ推薦する地元産日本酒を肩肘張らずに学び、楽しむ試飲会を6晩に分けて開催。会場で県PR映像の上映も行い、各県の魅力を紹介。

- 6会場計約300名が参加
- 6県計37銘柄をパリ市民に紹介

- 主催 ● 国際交流基金、参加自治体
- 企画 ● 相原由美子
- 協力 ● Kura Master

#### ～参加者の声～

- 「今まで知らなかったお酒を知ることによって出来て良かった」
- 「前回も参加したが、2回とも幸せなひと時だった」



ゲザヴィエ=チュイザ氏によるレクチャーの様子



ジャポニスム2018では、「日本の食と文化を楽しむ」シリーズ①および②のほか、以下のとおり省庁間連携を実施

- ジャポニスム2018開会式レセプション @ラ・ヴィレットにおいて、国税庁より日本産酒類を提供
- 「深みへー日本の美意識を求めてー」展@ロスチャイルド館の内覧会カクテルにおいて、日本酒造組合中央会より日本産酒類を提供

## ■ 平成30年度の取組状況 ■

### 各国若手外交官・公務員への日本酒紹介

#### < 専門日本語研修（外交官・公務員）での日本文化体験（2019年2月） >

日本と諸外国の外交関係の将来を担う日本語を話せる知日派の外交官・公務員を養成することを目的に8ヶ月間大阪（国際交流基金関西国際センター）で研修。日本語・日本事情に関する研修を行うほか、研修期間中は蔵元見学などの日本酒を学ぶ機会を参加者に提供。同研修は1981年より実施し、38年目。これまでに1,000名以上が研修に参加。



➤ アジア、大洋州、米州、アフリカ、ヨーロッパ32カ国の若手外交官・公務員が日本酒の魅力を体験

#### ～参加者の声～

- 研修期間 ● 2018年9月～2019年5月
- 主催 ● 外務省・国際交流基金
- 協力 ● 大阪国税局ほか

- 「日本酒が日本の人々や文化にとってどれだけ重要なものか学ぶことができた」
- 「日本酒の製造や時代に合わせた企業の取り組みを知ることができて興味深かった」

